

おわりに

校長室に書架を1つ設置しました。今年139年を迎える附属小には、毎年毎年作り上げてきた様々な発行物等があります。校内のあちこちにあったものをこの書架に納めて保管することにしましたのです。例えば、昭和25年第1号発行の子どもの文集「ふじだな」。現在106号となっています。昭和26年創刊号発行の育友会機関誌「かしわ木」。現在174号が発行されています。研究紀要は今年が第67集です。他にも卒業アルバム、記念誌等が1つの書架に収まっています。

第1回教育研究会が開かれたのが、昭和25年6月10、11日。この時から2日間の日程で、学習公開、研究発表、講演、児童発表などを主な内容として開催されています。研究主題は「学習指導法」から始まり、「指導と評価」「現実課題と学習指導」そして、昭和28年から「自主的学習」8年間継続されました。昭和35年研究紀要第14集の序として当時の小西英一校長は以下のように記しています。

「戦後の混沌とした世相の中にあって育ってきた新教育が「学力低下」「道徳性の必要」などの観点からきびしい批判の目をむけられはじめていたころ、私たちは、あえて自主性を強調する本研究主題を取り上げ、旧教育の復活的な傾向に対して、私たちなりに新教育のあり方をきびしく追求して来たのである。」

今年は第64回目の「教育研究発表会」です。「であう・つながる・うまれるコミュニケーション」を研究主題としての最終年度です。今年も「あえて」「私たちなりに」「きびしく追求して」来ました。これが金沢大学附属小学校の「伝統」です。

同僚と切磋琢磨し、互いに高まる関係をつくるよき環境があり、教育発表会を毎年開催する力量を持った教師集団です。教育研究発表会に向けた一過性の研究にはならず、研究で高め合うのが附属小の「伝統」です。附属小の教師は、生涯、学び続ける姿勢を持ち続けて、毎日の実践に埋没することなく、実践から学ぶ姿勢を持ち、研究を語ることができる教師になってほしいと願います。

「あえて」「私たちなりに」「きびしく追求」するための「選択」をする「自由」があるのも、附属小の「伝統」です。選択するには、良識があること、豊かな想像力や発想力があること、自己表現ができること、まわりとの良好な人間関係を構築できること等が重要です。なによりも、選択するには責任が伴います。

本校の教師集団は、謙虚にいていねいに、授業をふりかえることで、研究を進めて参りました。今後も、具体的な子どもの姿をもとに、「授業を真ん中に」することで、本校の研究は、さらなる前進を期待できます。これからも、「あえて」「私たちなりに」「きびしく追求していく」所存です。

また、授業構想、子どもの学ぶ姿、教師の行為等をご覧いただき、皆様方の忌憚のないご意見・ご指導を頂くことも、本校の研究推進に欠かせません。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

金沢大学附属小学校
副校長 林 良彦